

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201240
法人名	医療法人社団 隆成会
事業所名	グループホームあじさい
所在地	栃木県足利市多田木町1190 (電話) 0284-90-2201

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤6人(うち兼務2人), 非常勤3人, 常勤換算7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費—18,000円 ・日用品費—4,500円 ・教養娯楽費—3,000円 ・理美容代, おむつ代—実費 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時)	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	150円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名	
要介護1		名	要介護2		1名	
要介護3		5名	要介護4		1名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	89歳	最低	83歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	皆川病院, はぎわら歯科医院, 介護老人保健施設四恩苑
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは当地で古くから病院を開業している病院が母体になっており、敷地続きで老人保健施設、病院が併設されている。法人の理事長である医師が2週に1回往診し、管理者はじめ計3人の看護職がいるなど医療との連携が図りやすい体制になっている。職員は開設以来ほとんど替っておらず、休みの日でも顔を出したり、退職しても子どもを連れて遊びに来たりと職員もホームに愛着を感じている様子がうかがえる。病院前に捨てられていた猫を飼い始めた(入居者の中で猫の苦手な方はいない)。職員は、介護雑誌を元に勉強をしたり、その中の情報から他県に研修に出掛けたり、認知症ケア専門士の研修を修了したり、介護福祉士の資格取得にチャレンジしたりと向上心をもってケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は運営推進会議に報告し、スタッフ会議等で話し合っている。昨年から大きく変わった部分はないが、退居した入居者をもう少し支えられたのではないかという思いからターミナルケアに取り組んでいきたいという意見が職員から出てきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は主任・管理者が作成し、職員に意見を求める形で行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者、入居者家族、自治会長、民生委員、市役所職員がメンバーになっている。すべての家族に参加を呼びかけているが、参加は減ってきている。会議ではホームから行事や運営について実績と予定の報告をし、地域の行事参加について相談したり、ホームの周知について助言をもらったりしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームでの利用料金等支払になっていることから、少なくとも月に1回は家族が訪れており、その際に暮らしぶりや健康状態などを伝えている。玄関に個人別のアルバムが置いてある。模造紙を使って職員の顔写真入りの紹介コーナーを玄関に設けている。預かり金の扱いはしていないが、必要に応じてホームで立て替え払いをし領収書を添えて報告・清算している。法人のホームページでの情報提供も検討している。重要事項説明書にホームの苦情等受付窓口及び処理体制・手順を明記している。玄関には苦情・意見箱を置いているが、苦情が寄せられたことはない。行事の際などには家族に参加を呼びかけている。意見や要望があった時には、申し送りノートで職員間の情報の共有を図って対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地区の祭りや文化祭に参加したり、運営推進会議のメンバーである民生委員を通して敬老会への参加調整をお願いしたりしている。地元中学校の体験学習を受け入れている。元法人職員である近隣の方との付き合いや通院ついでの入居者の知人の来訪などはあるが、立地条件もあり、ホームとしての今後の課題と捉えている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、利用者が『安心』『尊厳』『喜び』のある生活を営めるよう継続的に自立支援を行う」「一人ひとりの人間性をよく理解することに努め、それぞれの人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスを提供する」を開設以来の理念としている。	○	地域との関係を深めていくことに課題意識を持っている。開設以来の職員も多いことから3年半の経験を踏まえ、職員間で話し合いながらホームとして大切にしたいことを話し合っ、理念の再確認・見直しをしていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設以来からの職員が多い。筆字で書かれた理念がホーム内の見やすい場所に掲げられている。日々の実践の中で、また月1回のスタッフ会議で職員間の話し合いをしながら理念の実践に努めている。訪問日にはソファで入居者の傍らに寄り添っている職員の姿が見られ、入居者に対して丁寧な関わりをしている様子が見られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地区の祭りや文化祭に参加したり、運営推進会議のメンバーである民生委員を通して敬老会への参加調整をお願いしたりしている。地元中学校の体験学習を受け入れている。元法人職員である近隣の方との付き合いや通院ついでの入居者の知人の来訪などはあるが、立地条件もあり、ホームとしての今後の課題と捉えている。	○	ホームは高台に位置し、入居者のADL状況等からも日常的に地域の中に出掛けて行くことが困難な様子はうかがえるが、今後も運営推進会議等で相談しながら、またホーム機能の地域還元なども考えながら、地域への働きかけを継続していくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議に報告し、スタッフ会議等で話し合っている。昨年から大きく変わった部分はないが、退居した入居者をもう少し支えられたのではないかという思いからターミナルケアに取り組んでいきたいという意見が職員から出てきている。今回の自己評価は主任・管理者が作成し、職員に意見を求める形でいった。	○	職員の入れ替わりが少ないことから、今後自己評価を実施するには全職員で評価に取り組み、それぞれの視点や意見の違いなどを話し合ってみるなど、ケアチームづくりの観点でも評価の機会を活かしていくことに期待したい。

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、自治会長、民生委員、市役所職員がメンバーになっている。すべての家族に参加を呼びかけているが、参加は減ってきている。会議ではホームから行事や運営について実績と予定の報告をし、地域の行事参加について相談したり、ホームの周知について助言をもらったりしている。	○	会議の持ち方などを工夫したり、地域の中で協力関係を深めていきたい機関・人に参加してもらうなど、地域密着型サービスとしての質の向上という意味でも運営推進会議の場を更に活かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席のほか、空き部屋の状況を伝えたり、市境にあるため隣市からの入居希望についての相談をするなどしている。ホームとしては更に市との連携を深めたいと考えている。	○	運営推進会議で地域の高齢者状況なども話題になっているので、ホームのサービス向上や地域の認知症ケアの向上のために市とともに取り組んでいけるような関係づくりに今後も努めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの利用料等支払になっていることから、少なくとも月に1回は家族が訪れており、その際に暮らしぶりや健康状態などを伝えている。玄関に個人別のアルバムが置いてある。模造紙を使って職員の顔写真入りの紹介コーナーを玄関に設けている。預かり金の扱いはしていないが、必要に応じてホームで立て替え払いをし領収書を添えて報告・清算している。法人のホームページでの情報提供も検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情等受付窓口及び処理体制・手順を明記している。玄関には苦情・意見箱を置いてあるが、苦情が寄せられたことはない。行事の際などには家族に参加を呼びかけている。意見や要望があった時には、申し送りノートで職員間の情報の共有を図って対応している。	○	運営推進会議への参加を全家族に案内したり、行事に家族を誘っているが、なかなか全家族がそろえることは難しい。今後も家族との接点づくりに努めながら、意見・要望・苦情等が言いやすい雰囲気づくりをしていくことに期待したい。また重要事項説明書等に市や国保連等の第三者機関を明示しておくことにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、ほとんどの職員は替っていない。都合によって離職した職員が子どもを連れて遊びに来たり、休日の日に職員がホームに顔を出したりとホームは職員にとっても愛着のある場所になっている。新しい職員には周りの職員がカバーしながら職員が替わることによる入居者への影響がないように配慮している。職員の採用の際には管理者及び主任が会ってホームに合う人かどうか話している。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人として定期的研修があり、安全対策や感染症対策などを学んでいる。また、介護雑誌等から情報を得たりして、勤務を調整しながら他県も含めた外部の研修などにも参加している。外部研修に参加した後はスタッフ会議で伝達したり資料を回し読みしたりして共有を図っている。毎月のスタッフ会議時には定期購読誌を参考にしたり、事例検討をしたりと勉強会的な時間もとっている。</p>	○	<p>管理者は研修参加に積極的な考えを持っているので、認知症介護実践研修などにも交代で職員を参加させていくことにも期待したい。また、認知症ケア専門士研修を修了したり、介護福祉士の資格取得にチャレンジしたりと、主任をはじめ職員が向上心を高く持っていることがうかがえたので、今後もチームケアを図っていくために職員全体として研鑽を積んでいくことに期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加入し、研修等に参加している。また、市内の他ホームと連絡をとったり情報をもったりしており、例えばホーム便りの検討など運営の参考にしている。</p>		
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人・家族にホームに来てもらって雰囲気を見てもらったり、空き室があれば体験入居をしてもらうなどしている。また既にホームでの生活をしている入居者との関係性などもよく見るようにしている。体験入居の結果、ホームでの生活が本人に合わない判断し、入居につながらなかった例もある。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のできることに配慮しながら調理の下準備や掃除、洗濯物たたみを一緒にしたり、献立を考えたりしている。また、職員は入居者から習わしごとや郷土料理などを教わっている。訪問日には入居者の傍らに腰掛け、入居者と話をしている職員の様子が見られた。</p>		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で入居者の思いをくみ取るよう努めている。難しい場合には家族を通して把握した生活歴等の情報や職員の気づき等を踏まえて本人の思いを推しはかって検討している。職員の担当制をとりいれており、また個人記録にモニタリングの欄を設けるなどの工夫をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望をあらかじめ確認し、介護計画作成担当者（ホーム主任）、担当職員、その日に勤務している職員で話し合い介護計画の作成・見直しをしている。本人の希望は話し言葉として表現されている。医師の指示等がある場合には、それも踏まえて介護計画を作成している。	○	介護計画作成担当者は、介護計画と実際のケアの連動性について更に向上を図りたいと考えているので職員の参画の仕方などに工夫を加えていくことにも期待したい。また、本人や家族、必要な関係者等が本人がより良く暮らすために話し合えるような場の検討をしていくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月から6か月ごとの定期的な見直しのほか、入院等で本人の状態が変わった時には随時見直しをしている。また、日々の支援方法の修正等は都度話し合い、申し送り等で職員間の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算および短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けている。管理者のほか計3名の看護職がおり、敷地続きで法人の病院があり理事長である医師が2週に1回往診したり、入院した方について医師と相談しながら退院してホームで暮らせるよう調整するなどしている。また、外出など入居者の希望を聞きながら柔軟な支援に努めている。		

グループホームあじさい


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をしている。母体法人が当地に根ざした病院であることから、もとのかかりつけが法人の病院である方がほとんどであり、現在はすべての方が法人の病院をかかりつけにしている。理事長である病院の医師が2週間に1回往診する体制になっており、通院が必要な場合は職員が付き添い、受診後に家族に状況報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した時の指針」を定めており、すべての家族に説明して希望を聞いている。退居した方にもう少し支援ができたのではないかとこの職員の思いから、希望があれば最期までホームでの生活を支えることとしている。敷地内に法人の病院があり、2週に1回往診があり、ホームには管理者はじめ計3名の看護職がおり、医療との連携が図りやすい体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員が入居者の傍らに座って穏やかな様子で話したり、食事中に洋服が汚れたときにも居室に誘って着替えを支援したりとプライドを大切にされた関わり方をしていた。個人記録等は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりきった日課はなく、起床時間や食事、入浴など一人ひとりのペースにそった支援に努めている。入居者の合作である巨大な貼り絵づくりも三々五々参加するといった感じで職員の都合で参加してもらったりはしていない。訪問日にもリビングで過ごす方、居室でくつろぐ方、それぞれに思い思いに過ごしていた。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は生協の宅配を利用しており、入居者と一緒になって食材を選んだり、足りないものを買に行ったりしている。皮むきなど、できることは入居者にしてもらっている。必要に応じて声かけや介助をしながら、職員も入居者と一緒と同じものを食している。訪問日にはテレビで流れていたレンコンが食事のときの話題になっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:30～15:30ぐらいの時間帯での支援が基本になっているが、午前や夜間（シャワー）など希望に応じた支援もしている。毎日入浴される方はなく、入浴の苦手な方には声かけの工夫をしながら週に2～3回の入浴を支援している。入居者のADLの低下に伴い、脱衣所に手すりを付け加えた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら調理の下準備や掃除、洗濯物たたみなどの家事を一緒にしたり、体操、貼り絵、塗り絵、歌、散歩、ドライブなど楽しみ・気晴らしの時間をつくっている。	○	ADLの変化等でできることの変化等もあるように見受けられる。職員が手を引きながら自らの足で歩くことを支援したり、必要な場所に手すりを加えたりしている。入居者の変化を見ながらも本人の力を活かしたり、趣味や得意なことを活かした支援など、今後も検討を重ねながら支援を充実させていくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺の散歩、買い物、ドライブのほか、月に1回程度行事的な外出・外食の機会を設けている。玄関先にはベンチが置いてあり、リビング続きで広いウッドデッキがある。以前は砂利敷きだったホームの前にある駐車場が舗装された。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、訪問日にも開放状態になっていた。ホームが駐車場から更に高台にあり、玄関から坂道になっていることもあって、入居者が外出する時は転倒などの危険回避の意味で職員が付き添っている。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地続きで同法人の老人保健施設、病院があり、合同で定期訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。消防署が近くにあり、近隣の住民にも有事の際の協力をお願いしている。法人内の施設・病院があることから、夜間でも10人近くの職員が敷地内にいる。	○	法人内での連携体制をもとにしつつ、大きな災害を想定して、また防災や災害時の対策を通して地域の方々との関係を深めていくという意味でも、地域の方や消防団などとの日頃からの関係づくりにより更に積極的に取り組んでいくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成し、定期的に法人の管理栄養士の助言を受けている。食事・水分の摂取状況を記録し、またミキサー食など入居者の状況に応じた形態での提供など、適切な栄養や水分が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちゃぶ台や棚、鏡など以前家庭で使われていた物が所々においてある。壁には入居者と職員で一緒に作った紅葉、サツマイモ、栗、柿などの貼り絵が飾ってあった。ダイニングテーブルのほか、ソファ、和室などがあり、椅子が数多く置かれていた。換気扇や窓の開け閉めで換気を行い、室内に気になるにおい等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ってきてもらうようにしており、ベッド、テレビ、小型タンス、イスなどが持ち込まれていた。また、手作りのカレンダーや習字など入居者の作品が居室に飾ってあった。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。